

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和5年度の活動報告・ 令和6年度の活動の方向性

令和6年3月26日

協議会及び分科会の構成

「新しい東北」官民連携推進協議会（平成25年12月17日設立）

- 民間企業・大学・NPO等各種団体・地方自治体から構成（1,280団体（令和6年3月21日現在））。
- 官民の様々な主体の間で連携を生み出し、復興を契機とした新たな挑戦を促進。
- 具体的には、ウェブサイトやワークショップ・イベントの開催等を通じて、各主体に関する情報（課題、ノウハウ、リソース）の共有や連携を促進。

各種課題に対応するため、協議会の下に3分科会を設置して活動

地域づくりネットワーク

（平成27年2月設立）

- 被災地の地方自治体から構成（71団体）。
- 「地域内の協力体制」や「地域内外とのネットワークの構築」などを図り、取組の自走化を目指すため、「地域づくりハンズオン支援事業」を行い、地域課題の解決に取り組む自治体、NPOなどに対して各種取組やニーズに応じたきめ細かな伴走型の支援を実施。

復興金融ネットワーク

（平成26年7月設立）

- 金融機関等から構成（35団体）。
- 官主導の取組による復旧から、民主導の取組による本格的な復興への橋渡しを行うため、金融機関等に対し、産業復興に関する情報の提供等を実施。

企業連携グループ

（平成27年4月設立）

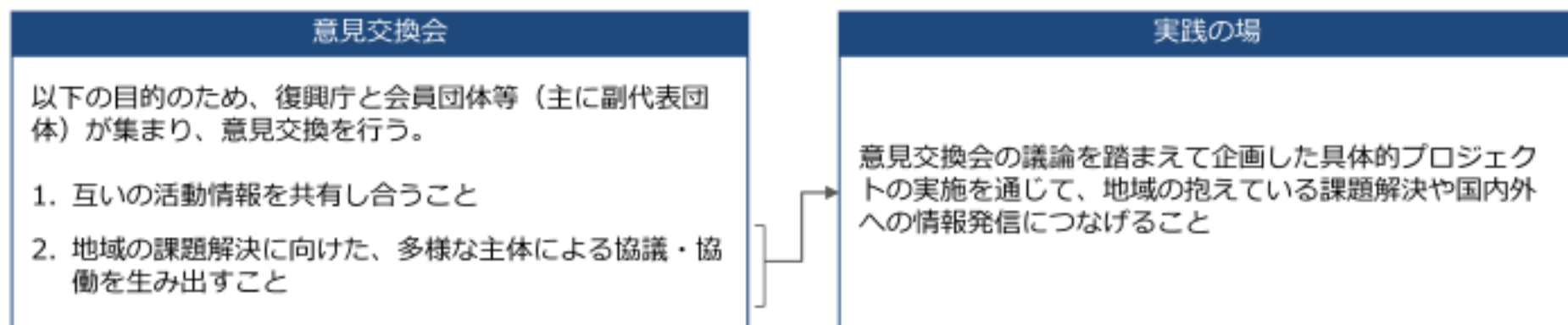
- 企業復興支援ネットワーク、専門家派遣集中支援事業、販路開拓支援チームなどの機能を集約して提供。
- 民間企業と被災自治体、被災地企業と外部企業などが連携して展開する事業への支援および事例集作成や積極的な情報発信等を実施。

● 3県での意見交換会・実践の場の開催

意見交換会・実践の場の概要

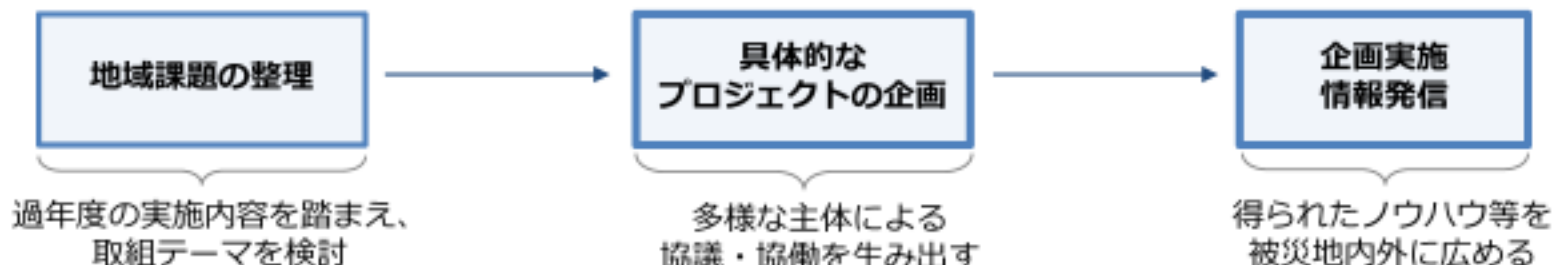
3県それぞれに過年度からのテーマを継続しつつ、今年度は**具体的なプロジェクトの企画・実施**により、地域課題の解決や国内外への情報発信につなげる可能性を模索。

■ 意見交換会・実践の場とは



■ 今年度の概要

- ・ 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続
- ・ **具体的なプロジェクトの企画・実施**を通じて、多様な主体による協議・協働を生み出す
- ・ 単年度のためのイベント実施に終わるのではなく、**企画にかかわった方の継続的な関係性の構築**など、**地域や被災地外にノウハウ等を残すことができるような取組**を目指す



● 3県での意見交換会・実践の場の開催

岩手県での取組

第1回 (5月18日(木))	第2回 (8月21日(月))	実践の場 (11月25日(土) 26日(日))	第3回 (1月22日(月))
<ul style="list-style-type: none">● 各団体の活動紹介● 令和5年度のテーマ、取組み内容等について <p>(意見交換内容)</p> <ul style="list-style-type: none">・過年度事業を踏まえた取組テーマ／課題／取り入れるべき視点・取組の具体的な内容(企画のターゲット／プレイヤー間の役割・連携)	<ul style="list-style-type: none">● 各団体の活動紹介● 令和5年度の実践の場実施に向けた検討 <p>(意見交換内容)</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の企画案の再確認・副代表団体からの参加者募集・岩手県沿岸部の訪問箇所の案出し	<p>企画から訪問まで、「行きたい!」「会いたい!」を実現する 三陸沿岸を訪れ、復興の姿を知る “三陸沿岸学び旅・交流プログラム”</p>	<ul style="list-style-type: none">● 各団体の取組紹介● 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換 <p>(意見交換内容)</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度企画の良かった点／反省点・改善点・次年度の取組方針／継続実施に向けた検討

■ 実践の場の企画背景

【背景・目的】

- 震災から12年が経過する中、震災直後にあった内陸部から沿岸部への支援や交流が徐々に減少。また、特に若年層において震災の記憶が風化。
- 岩手県の内陸部の学生・若者に三陸沿岸の復興の姿や魅力を知っていただくため、学生・若者自身に、三陸沿岸の事業者とも協議しながら、オリジナルの三陸沿岸ツアーを考えていただき、実際に三陸沿岸部に訪問いただく取組を企画。
- ツアー内容について、岩手沿岸のコーディネーターを中心として企画することにより、沿岸部を縦につないだ事業者同士の連携を創出

■ 実践の場の開催概要

企画から訪問まで、「行きたい!」「会いたい!」を実現する 三陸沿岸を訪れ、復興の姿を知る“三陸沿岸学び旅・交流プログラム”

日時：2023年11月25日(土)・26日(日)
場所：久慈～田野畑／宮古～釜石／陸前高田～大船渡の3エリア
参加者：岩手県内外の若者(大学生・社会人)7名

- 若者自身がオリジナルの三陸沿岸ツアーを考案する「事前ワークショップ」(10月14日)や当日感想等を現地事業者等に直接フィードバックする「振り返りミーティング」も合わせて開催。
- 現地の方との交流に軸足を置いたプログラムは、人の魅力」という三陸地方の長所とも噛み合い、参加者には高評価。継続実施を求める意見が多数。
- 協力事業者からは、事業者間の連携創出につながったという意見あり。



● 3県での意見交換会・実践の場の開催

宮城県での取組

第1回 (5月25日(水))

- 各団体の活動紹介
- 令和5年度の取組方針、取組み内容等について

(意見交換内容)

- ・エクスカーションプログラムの試行が考えられる会議体、行程案について
- ・実践の場当日の企画案について

第2回 (9月6日(水))

- 各団体の活動紹介
- 令和5年度の実践の場実施に向けた検討

(意見交換内容)

- ・エクスカーションプログラムの試行が考えられる会議体、行程案について
- ・実践の場当日の企画案について

実践の場 (12月26日(火))

「新しい東北」みやぎ復興
ツーリズムフォーラム
～未来につなぐ 東北のものがたり～

第3回 (2月5日(月))

- 各団体の取組紹介
- 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換

(意見交換内容)

- ・本年度の取組（エクスカーションプログラムの試行／県内高校と連携した招待状作成／フォーラム開催）の良かった点／反省点・改善点
- ・次年度の取組方針／各団体の連携内容

■ 実践の場の企画背景

【背景・目的】

- R4年度より、宮城県沿岸部のエクスカーションプログラムを検討。プログラムの具体化・商品化を目指し、宮城県の副代表団体が関わるMICE等を対象とした試行実施。
- 個人旅行客等も見越した効果的な情報発信のため、県内高校と連携して地域内外の誰かに向けた招待状作成のワークショップを開催。
- これらを事例報告するとともに、県内の観光関係者等のパネルディスカッションを通じて、「面」としての観光コンテンツの磨き上げに向け、MICE関係者や将来の観光産業の担い手とヴィジョンを共有するためのフォーラムを開催。

■ 実践の場の開催概要

「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム ～未来につなぐ 東北のものがたり～

日時：2023年12月26日（火）
場所：宮城県仙台市東北大学片平さくらホール
参加者：56名

- 2本のエクスカーションプログラム、訪日外国人向けモニターツアー1本を試行。大阪・関西万博開催時のプログラム化に向けて、今回協力いただいた現地旅行会社等でコンセプトや行程の磨き上げを実施予定。
- 県内唯一の観光科を持つ宮城県立松島高等学校の学生7名に参加いただき、3回のワークショップで招待状を作成。来年度のさらなる展開に向けて検討中。
- フォーラムについては、事後アンケート回答者の95%※が、これからの業務の参考になった・非常に参考になったと回答。

※有効回答者数20名



● 3県での意見交換会・実践の場の開催

福島県での取組

第1回 (6月7日(水))

- 各団体の活動紹介
- 令和5年度の取組方針、取組内容等について

(意見交換内容)

- ・今年度の企画の進め方(運営委員会方式)について
- ・副代表団体が開催するイベント等との連携について

第2回 (9月11日(月))

- 各団体の活動紹介
- 令和5年度の取組方針、取組内容等について

(意見交換内容)

- ・運営委員会における議論状況について
- ・プログラム終了後の事後展開について

実践の場 (2月13日(火)～15日(木))

“ふるさと愛”プロジェクト in J-VILLAGE
あなたに会わせたい「ふくしま」な人
～72時間スケッチ旅行～

第3回 (2月27日(火))

- 各団体の取組紹介
- 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換

(意見交換内容)

- ・本年度の取組の良かった点／反省点・改善点
- ・次年度の取組方針／継続実施に向けた検討

■ 実践の場の企画背景

【背景・目的】

- 令和4年度より、「J-VILLAGE」を舞台に県内外の若者たちが集まる「話し合いの場」を設けるべく検討。
- 今年度の企画テーマは、「“ふるさと”をテーマに、目指したい、目指すべき未来の姿を考える”こと。企画内容については、昨年度の参加学生も交えた運営委員会において検討。
- 全国の次世代を担う学生等に参加いただき、福島県の復興に向けて果敢にチャレンジする地元の方々との交流や、現地でのフィールドワーク等を通して“福島の魅力”を発見し、「ふるさと愛」について考える取組を企画。

■ 実践の場の開催概要

“ふるさと愛”プロジェクト in J-VILLAGE あなたに会わせたい「ふくしま」な人～72時間スケッチ旅行～

日時：2024年2月13日(火)～15日(木)

場所：福島県双葉郡

参加者：25名(県内学生：8名、県外学生：16名、県外社会人：1名)

協力事業者：14事業者

- 参加学生目線で魅力ある企画とするという観点から、7月より運営委員会を設立。全7回にわたって企画案について議論。
- 2泊3日で、「ふるさと」をトークテーマに1対1での対話を繰り返すワークショップや参加学生等には是非会ってほしい「ふくしま」な人との交流を実施。
- 訪問・交流を通じて感じた参加者の想いも盛り込んだパネルを事業者ごとに制作。ポスターセッション形式で発表。
- 参加者からは参加により福島県の復興の取組への関心が深まったとの声が多数。



● 令和5年度「新しい東北」復興・創生の星顕彰

- 震災を契機として、被災地において人口減少や産業空洞化などの**全国の他地域にも共通する課題等の解決に取り組み、新しい東北の創造に向けて貢献している個人・団体を顕彰**。（平成28年度～、令和5年度で8回目。）
 ※ 令和3年度より「新しい東北」復興・創生の星顕彰として令和2年度までの「復興・創生顕彰」と「産業復興事例顕彰」を1本化して実施。
- 今年度は、令和4年8月から令和5年7月までの1年間に活動実績がある**123件の取組**から、外部有識者による選定委員会を経て**10件を選定**。令和6年2月11日に**仙台市にて顕彰式を開催**。また、顕彰式後に顕彰団体・選定委員等を交え、交流会を実施。
- 令和4年度受賞者の取組についてフォローアップを行い、「新しい東北」ポータルサイト上に記事を掲載するとともに、事例集を作成。

<令和5年度募集結果（令和5年6月1日～8月1日）>
 ・応募件数 123件

<選定結果：受賞者一覧（10件）>

岩手県九戸郡洋野町	株式会社 北三陸ファクトリー
岩手県釜石市	夢団～未来へつなげるONE TEAM～
宮城県石巻市	一般社団法人 SEAWALL CLUB
宮城県気仙沼市 （本社：大阪府大阪市）	株式会社 ロスゼロ
福島県双葉郡双葉町	浅野燃糸 株式会社
福島県双葉郡葛尾村	一般社団法人 葛力創造舎
福島県双葉郡川内村 （事務局：福島市）	特定非営利活動法人 元気になろう福島
福島県双葉郡富岡町	一般社団法人 とみおかプラス
福島県郡山市	株式会社 孫の手
福島県相馬市	株式会社 マルリフーズ

<顕彰式（令和6年2月11日）>
 受賞者全員での記念撮影



車座での意見交換



<「新しい東北」事例集>
 令和4年度受賞者の取組



令和4年度「新しい東北」復興・創生の星顕彰
 受賞者事例



- 「新しい東北」に関心のある者の交流、情報発信、東北のファンづくり、さらに、東北で蓄積されてきた防災・減災や復興の経験知を共有し、その好事例やノウハウの被災地内外への展開を目的にワークショップを開催。
- 令和5年度においては、昨年度に引き続き、各市町への移住に関する「東北くらし発見塾」6回と被災地で課題解決に取り組む団体支援に関する「Cheer Up! Project」5回開催。
- このほか、復興大臣出席の「Cheer Up! Project」のキックオフイベント、移住コーディネーター向けワークショップ、ツーリズムEXPOジャパンでのセミナーを開催するとともに、全国的な移住フェアへのブース出展等を実施。

東北暮らし発見塾

- 全国から参加者を募り、岩手・宮城尾沿岸地域の魅力を発信し、移住者及び交流・関係人口の拡大等の移住促進策の磨き上げを行うワークショップ
- 昨年度までの単独自治体開催に加え、近隣の複数自治体での開催や、子育て等を切り口としたテーマ別開催を実施

Cheer Up! Project

- 被災地の課題の解決に取り組む団体が、活動や今後の取組等を紹介し、それらの実現に向けて必要な取組・考え方等について参加者の参画による双方向の交流を行うワークショップ
- 開催場面を動画配信サービス等においてアーカイブ配信し、より一層の東北へのファンづくりを促進
 - ※ 動画の視聴回数数の目標値（KPI）：各回1,000回を達成（R6.3.18時点で計16,133回再生）



【JOIN 移住・交流&地域おこしフェア2024でのブース出展】

- 移住者・関係人口の拡大、参加者の東北に対する関心の促進（のべ448名が参加〔暮らし発見塾 165名、CheerUp!Project 283名〕※参加者から各地のおためし移住、地域おこし協力隊への応募に繋がった）
 - ※合計参加者数の目標値（KPI）：暮らし発見塾120名、CheerUp!Project200名 を達成
- 新たに取組んだアーカイブ動画配信やインスタライブ発信が好評



【Cheer Up! Project キックオフイベント「東北未来ダイアログ」】

● 分科会の活動

地域づくりネットワーク

- **地域課題の解決に取り組む自治体、NPOなどに対し伴走型の支援**を行う「地域づくりハンズオン支援事業」を実施。「被災地内外との緩やかなつながりの構築」や「取組主体がより自主・自律的に行動し、新たな活動の展開ができるようになること」に重点を置いた支援を行い、**地域課題解決に向けた取組の継続的実践・自走化**を目指す。
- 令和5年度は、3つの支援対象団体へ、年間を通じた伴走型支援を実施。また、他地域の取組の視察や意見交換から学びを得るブラッシュアップ会、各団体の取組等を共有する成果共有会を実施。

(一財) みらい創造財団
朝日のあたる家

(岩手県陸前高田市)

被災地の未来を創造するためのファンレイジング基盤の構築プロジェクト

- 農林水産など人材不足に苦しむ地域産業と働きづらさを抱える人たち（障がい・高齢・子育て中など）とをマッチングする産福連携事業を実施。活動の持続・発展に向けた財源確保が課題。
- ⇒ 寄付獲得のための戦略や対応フローの制定、地域での理解醸成のための市議向けの意見交換会の開催、企業版ふるさと納税事業の実施・産福連携の推進に向けた連携協定の締結に向けた陸前高田市との調整、岩手県主催の「岩手NPO×県外企業交流会」での寄付営業、サービスサイトや広報物の作成等を支援。（取組目標の達成状況（KPI）：13/13）

(一社) walavie

(岩手県釜石市)

海外・途上国へ向けた若年層の自発的な防災・伝承活動を推進するスキームづくり

- 釜石市・大槌町で行われている高校生による主体的な防災・震災伝承活動を海外・途上国向けに発展。設立後間もない団体であり、中長期的な活動方針整理や海外交流プログラムの継続実施体制の構築が課題。
- ⇒ インドネシアでの試行スタディツアーの実施を通じた現地協力者との関係性の構築、資金調達方針・組織運営体制・県や市との連携などの中長期的な取組方針の策定等を支援。（取組目標の達成状況（KPI）：4/4）

(一社) fukucier

(福島県会津若松市)

地域の多様な人材の力を活かす、高齢者・障がい者等を支える介護・生活支援・身元保証の仕組みづくり

- 震災で住み慣れた土地を離れ身近に頼れる人がいない高齢者、身寄りのない高齢者等に対する保険外生活支援サービス等を提供。需要が見込まれる身元保証・死後事務委任の仕組みづくりや新規事業（訪問介護事業）の立ち上げに課題。
- ⇒ 白河市と連携、**県内初となる高齢者等の身元保証**（介護施設への入所・入院の受け入れ体制、葬儀生前契約支援）の仕組みを整理、身元保証・死後事務委任の円滑な実施に向けたサービスの体系化・書類の整備・他社との連携に向けた調整、訪問介護事業の立ち上げ等を支援。（取組目標の達成状況（KPI）：5/6）

● 分科会の活動

企業連携グループ

□ 地域復興マッチング「結の場」

- 被災地域企業が抱える多様な経営課題の解決を図るため、支援提案企業が自らの経営資源（技術・情報・販路等）を幅広く提供しながら、**マッチングを目的とした対話の場**を実施。令和4年度と同様にオンラインを活用。

開催日：令和5年10月17日（岩手県、宮城県、福島県の3拠点同時開催）

参加者：＜被災地域企業＞【岩手】8社、【宮城】8社、【福島】7社

＜支援提案企業＞21社（主に食品小売り・流通関連企業）



□ 新ハズオン支援

- 被災地域における産業・生業の再生や中長期的な課題解決につながるハズオン支援を実施。

・グループ支援：4件

被災地域における共通の課題（新商品開発、販路拡大等）の解決に取り組む事業者グループを対象に、民間企業出身の復興庁職員が民間の知見を活用しつつハズオン支援を実施。

・個社支援：15件

被災地域企業の抱える**販路拡大**や**新商品開発**、**生産性向上**といった課題に応じて専門家を派遣し、その解決に向け、復興庁職員が民間の知見を活用しつつハズオン支援を実施。



▲いちご生産・販売事業者への新サービス開発支援（個社支援）



▲ビジネスマッチ東北2023への出展（販路拡大グループ支援）

□ 事例集作成による情報発信(産業復興事例集)

- 岩手・宮城・福島の3県の企業や団体による、**業種や地域の特性、培ってきた知見や創意工夫を活用した「挑戦」**を紹介。令和5年度は**30事業者**（岩手県7・宮城県7・福島県16）に取材を行い、事例集として編さん。また、**これまでの12年間・全366事例**を年度・業種・経営課題などの**カテゴリーごとに検索可能な機能を追加**。



岩手・宮城・福島の産業復興事例集30
2023-2024

復興金融ネットワーク

□ 復興金融ネットワーク

- 被災地の産業・生業の再生に向けては、中小企業・小規模事業者の様々な経営課題に応じた支援を実施していくことが重要であり、そのために資する**勉強会を計4回開催**。事業承継（スモールM&A）や事業再生支援をテーマとする勉強会のほか、新ハズオン支援・「結の場」に関する説明会を実施。



会員団体の構成

総会員数は、昨年度と比較して、ほぼ横ばい。また、被災3県内の会員数が総会員数の過半数を占めている。

(1) 会員団体の属性

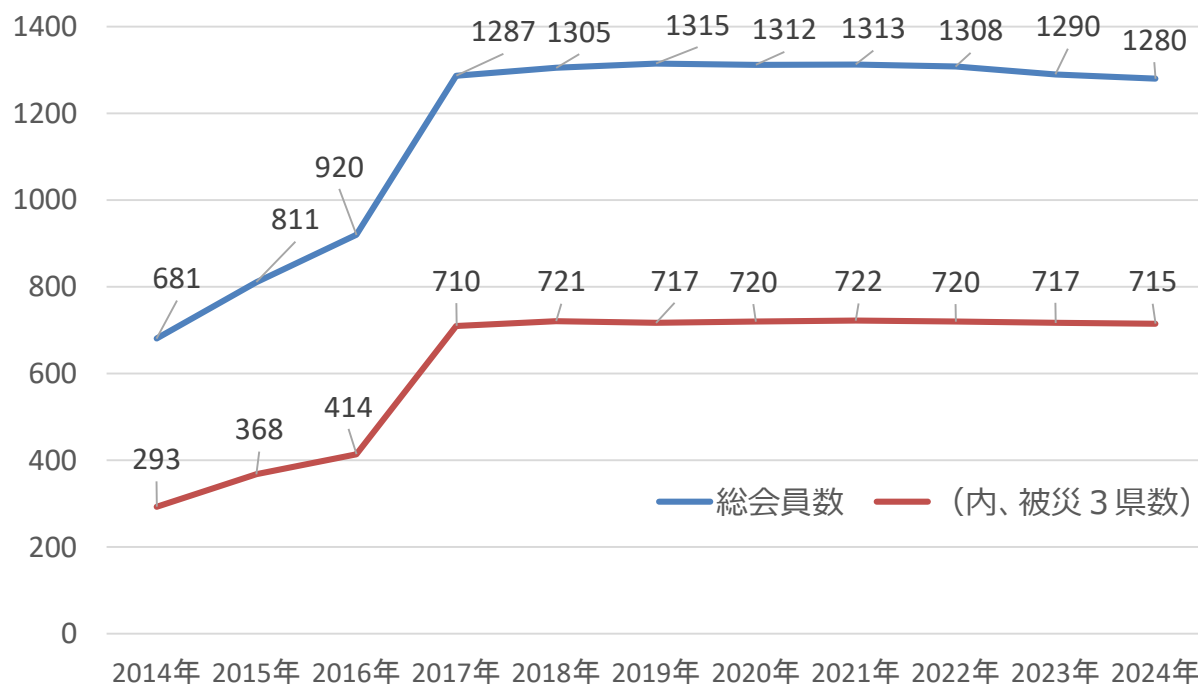
※令和6年3月1日時点

カテゴリ	団体数	割合
代表・副代表	21	2%
経済団体	85	7%
民間企業	395	31%
各種協同組合等	61	5%
NPO法人	49	4%
公益法人等	123	10%
独立行政法人等	19	1%
大学等	113	9%
先導モデル事業	220	17%
地方自治体等（都道府県）	37	3%
地方自治体等（市町村）	133	10%
府省庁	24	2%
合計	1280	100%

【被災3県内の団体の割合】

所在地（県）	団体数	割合
被災3県合計	715	56%
岩手県	132	10%
宮城県	336	26%
福島県	247	20%
被災3県以外	565	44%
合計	1280	100%

(2) 会員数の推移



※各年3月31日時点
※2024年のみ、3月1日時点の数値

● 協議会の現状

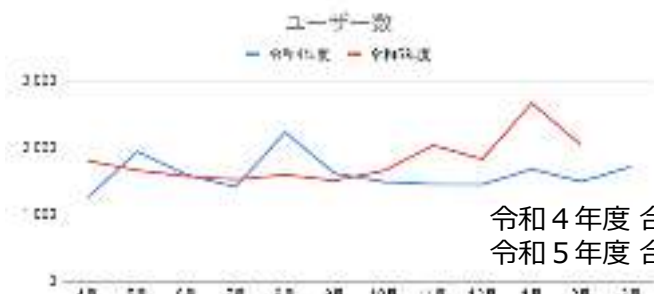
ウェブサイト等の状況

○ **協議会ウェブサイト**のPV数・ユーザー数は昨年度と同等の水準。

(1) 月間WEBサイトアクセスサマリ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
セッション数	2,534	2,087	2,030	1,914	1,985	1,997	2,266	2,668	2,417	3,434	2,765
ユーザー数	1,799	1,658	1,567	1,520	1,591	1,504	1,648	2,031	1,825	2,663	2,038
PV数	6,469	4,191	4,457	3,879	4,041	4,685	4,656	5,326	4,786	6,662	5,678
PV/セッション	2.55	2.01	2.20	2.03	2.04	2.35	2.05	2.00	1.98	1.94	2.05
平均セッション時間	4分35秒	3分01秒	3分17秒	3分31秒	3分19秒	3分23秒	3分40秒	3分24秒	3分43秒	3分13秒	3分20秒
直帰率	41.04%	43.99%	42.17%	40.33%	42.02%	40.51%	40.86%	39.73%	42.04%	39.78%	39.53%
新規セッション率	68.98%	75.23%	73.99%	76.07%	76.62%	71.91%	69.68%	74.51%	74.02%	76.53%	70.09%

(2) PV数・ユーザー数 前年比較



○ **協議会Facebook**について、3月に発行した「るるぶ特別編集東日本大震災伝承施設ガイド」の紹介記事の公開及び復興庁公式Facebookでのシェアにより、リーチ数・アクセス数ともに上昇。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
リーチ数	275	354	328	7,849	5,272	4,734	4,196	4,032	3,036	2,693	3,572
アクセス数 (PV数)	56	75	40	286	205	337	318	211	249	276	331
前年同月比	169.7%	102.7%	38.8%	344.6%	158.9%	351.0%	530.0%	439.6%	377.3%	328.6%	278.2%
投稿数・シェア数	5	12	15	23	22	26	20	20	13	20	20
いいね数	0	0	0	625	359	459	598	339	346	298	259



● 令和6年度 活動の方向性

【3県での意見交換会・実践の場】

- ✓ 今年度実施した企画内容を踏まえて、継続実施。この際、令和7年度以降、取組が自走化・地域へ定着することができるよう、副代表団体との間で意見交換を行う。
- ✓ 合わせて、第2期復興・創生期間の最終年度である令和7年度において、協議会として取組むべき企画等に関する意見交換を行う。

【「新しい東北」復興・創生の星顕彰】

- ✓ 継続実施。併せて、顕彰団体を紹介するWEB版事例集の周知拡大を検討。

【Fw: 東北 Fan Meeting】

- ✓ Fw: 東北 Fan Meetingについては、団体支援型のワークショップ「Cheer Up! Project」を継続実施するとともに、2カ年に渡って取組んできた移住促進に係る取組のフォローアップを行う。

【地域づくりネットワーク】

- ✓ 地域づくりハンズオン支援事業を継続実施。併せて、過年度の事業のフォローアップを実施し、取組の自走状況、他地域への展開状況などを調査するとともに、効果的なハンズオン手法のノウハウを整理。

【企業連携グループ】

- ✓ 地域や事業者の復興状況に応じて、専門家等を活用しながら、経営課題を見極めつつ、その改善を支援する「新ハンズオン支援」は、引き続き実施。
- ✓ 地域復興マッチング「結の場」では、オンラインを活用しながら被災地域企業と支援提案企業（大企業等）との幅広い連携機会を創出。
- ✓ 産業復興事例集を引き続き復興庁WEBページに掲載し、被災地における産業・生業の再生に向けた手引きとして活用。また、過去の「新ハンズオン支援」、「結の場」の成果や課題などについてフォローアップを実施。

【復興金融ネットワーク】

- ✓ 被災地の産業・生業の再生に向け、引き続き復興金融ネットワークのメンバーに対し説明会の開催を含めた各種の情報提供を行うなど、メンバー間の連携を図っていく。